

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870700026		
法人名	医療法人寿人会		
事業所名	グループホームさばえ		
所在地	鯖江市旭町4丁目4-13		
自己評価作成日	平成25年11月 1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさを大切に」を今年度の事業所の活動方針とし、入居者一人ひとりの思いや希望を話せる時間をもち、おひとりおひとりのペースで過ごせるよう支援しています。全職員でカンファレンスを開催し、入居者の方の事を共通理解できるよう努めています。また、運営母体は病院でもあり、医療連携が整っていて安心して生活していただけます。当事業所の1階は小規模多機能の施設であり、入居者や職員との交流もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は駅前の商店街から少し離れた閑静な住宅街にある。1階が小規模多機能型居宅介護事業所で、2階が当事業所である。同じ敷地内に同一法人の病院があり、病変時は速やかに診察や往診を受けることができる。運営するサービスはすべて昔ながらの馴染みの病院が行う事業所として地域に密着しており、住民から信頼されている。商店街や寺院、公園などが徒歩可能な範囲にあり、日常的に散歩や買い物を通して地域の人々との交流が持たれている。また、重度化した場合や終末期も、法人全体で連携しあって本人・家族の希望通りに最後まで対応している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人年間目標を基に、グループホームさばえの年度目標を決め、事務所内に掲示している。	法人の理念のもと、事業所独自の理念を1年ごとの目標として職員全員で話し合っ決めて決めている。本年度は「その人らしさを大切に、その人らしく過ごせる」に基づいて職員の個人目標を設定し実務に活かしている。年度末には評価も実施している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には散歩に出かけた時など地域の人に挨拶や声掛けをしている。また近所の商店に買い物へ行き、店の人と話をしたりしている。町内の納涼祭や町内行事への参加は続けており、交流を深めるよう努力している。	町内会に加入しており、納涼祭に参加している。日常的に散歩や買い物に出かけて地域と交流している。また、法人全体で地域住民に向けての認知症や高齢者の介護に関する講演を行うなど貢献している	法人全体としては地域に充分理解されている。今後は、グループホームとしての事業所のことを地域に向けて発信し、地域密着型サービスの特性をより一層地域住民に周知するような取組みに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域での認知症の人の理解や支援の方法の教室などは開催していない。今後キャラバンメイト等に参加し認知症の理解を促す機会を設けるなどに努める。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。利用者及び家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し、利用・活動状況の報告を行った後に意見や要望をもらい、職員間のカンファレンス等で話し合っている。	利用者代表、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月毎に開催し、事業所の現状や活動を報告している。消防の駆けつけ班などについても相談している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは運営の状況を報告したりしている。問題点があるときは電話等で相談するようにしている。	地域包括支援センター職員が2ヶ月毎に訪問するほか、センターの行事などへ参加するなどして情報交換や利用者の相談を行っている。市担当者にも、その都度、報告や相談をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを元に職員間で勉強会を行い、拘束・抑制しないための工夫や縛らない環境などについて話し合っている。しかし利用者様の安全を保護するために必要な時には玄関の施錠をしている。	本年度は、研修会を特に開催していないが、身体拘束については全職員が十分に認識しており、マニュアルに基づいて実践している。玄関は殆ど開錠されているが、職員が少なく安全に支障が感じられる時のみ、施錠する時もある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修に参加、伝達講習を実施。利用者自宅への訪問で虐待を確認した実績はない。事業所内では、些細な行動にも注意を払っている。利用者、職員からの意見にも注意し確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護に関する研修の参加はなかったが、今後研修に参加し伝達講習を行い制度の理解をしていきたい。現在、必要とする利用者は入所していない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず重要事項説明書を用い説明をしている。解約の際にも理解が得られるまで説明を実施している。利用者や家族等の不安や疑問点などを伺い、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満、苦情、意見等は職員が伺う時間を設けており、出来る限り意思に沿うように配慮している。家族からの意見・要望等は来所されたときに伺っている。	請求書を郵送せずに家族に取りに来てもらい、その際に家族の意見や要望を把握している。年1回本人・家族アンケートを実施したり、玄関に意見箱を設置したりしている。把握した意見は、職員間で相談し、必要に応じて速やかに対応している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度カンファレンスを実施し、職員の意見や提案を聞き業務改善に取り組んでいる。また日頃より職員同士でのコミュニケーションをとり、意見等を聞ける体制をとっている。	日頃から職員が意見を言いやすい環境づくりに努めている。また、月に1回の職員会議と年に1回の個別面談を通して、職員全員の意見や提案を聞き、運営に取り入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が自己評価をし、その後所属部所長が職員を評価。その後、所属部長が評価し、運営者に報告している。また毎年個人目標をあげ研修等にも参加し、質の向上を図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営母体が定期的にも実施する内部研修に参加している。また、外部の研修には年に一回勤務扱いで参加し、参加後には伝達講習を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会や鯖江市の地域密着型事業所の連絡協議会に参加し、交流や意見交換を行い勉強の場になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所を見学に来られたときなどにお話する程度で、導入の段階で不安なこと、要望等をお聞きすることはあまり実施できていない。入所後に日々の関わりの中でゆっくり話す機会をもち、安心して過ごせるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前であっても聴く機会を設けている。また来所されたときにも意見や要望を聴く時間をもち、関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を前提とした相談ではなく、他のサービス利用の提案も実施している。家族の要望等を傾聴するよ努め、他のサービス(他事業所)の紹介も実施している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が大切にされていること(されてきたこと)、得意なこと不得意なことなどの情報収集に努め、職員全体で過ごしやすい雰囲気作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所に来所して下さるご家族様とはコミュニケーションをとるよう努めている。良い関係が気づけるよう、お話しする機会を増やしていきたい。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族や親戚、知人の方などの面会の希望があれば、いつでも来ていただけるようにしている。また、近くの商店などに出かけたりと関係が途切れないように努めている。	入所前に利用者や家族から馴染みの関係を聞き、職員間で把握している。利用者は馴染みの商店や美容院、図書館、公園などに職員と出かけたり、墓や自宅に家族と出かけたりしている。知人の面会も随時受け入れている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話や趣味など気の合う人で近くに座っていただいたりしている。全体の交流の場では、極端な偏り(グループ)にならないよう、場所などを配慮し、離しやすい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体病院に入院となり契約が終了した場合には、他の入居者とお見舞いに行くなどし、本人・家族の話を聴いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から言動や表情などを記録し、心身の情報(私の姿と気持ちシート)を用いて展開している。	日頃の関わりや言動から利用者の意向をセンター方式を使用して図式化し、職員全員で共有している。職員間で定期的に話し合いを持ち、随時、利用者の意向に沿うような支援に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人をはじめ、家族などからの情報収集に努め、フェースシート等を利用し把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員としての把握(状態観察)、看護職員としての把握(バイタルチェック・状態観察)を実施し、総合的に判断し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用い、入居者・ご家族と相談し計画している。職員間にて課題を共有できるようカンファレンスを実施し、より良いケアプラン作成を心掛けている。	センター方式を活用し本人、家族、職員の意向が反映されたケアプランとなっている。3ヶ月に1回ケア会議を実施し、見直している。また、急変時にもその都度見直ししている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に気づき等を記入し、「できること・できないこと」シートにて展開、見直し時に活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営母体が病院である為、健康チェックや栄養管理など医療面での行き届いた支援体制ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の商業施設、医療機関や他施設を利用し、本人の心身の向上維持に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。また受診の際には職員が同行するなどし、主治医との連携に努めている。	利用者が希望するかかりつけ医を選択できる。利用者の殆んどが内科医は隣接の病院を選択し、往診も可能である。精神科、歯科、眼科の受診は家族が行う。急変時は職員が付き添い受診結果を家族に報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師に気づいたことや変わったことがあれば伝え相談をし、看護師は家族や主治医と連絡・調整しながら入居者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師・看護師などと連携をとり、情報交換・相談を行っている。また、退院前には情報収集、カンファレンスなどの参加をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制の説明後、医療に対する思いを本人・家族から聞くように心掛けている。また、重度化した場合には、本人の意向を踏まえ、家族や医師、職員で話し合いできる限りのことを支援している。	利用者や家族の希望に応じて終末ケア・看取りを実践している。また、希望に応じて同一法人の病院に移動することもできる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	運営母体が行っている研修等に参加するなどしている。また院外の研修などにも参加し実践力を身につけるよう心掛けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内での訓練を実施している。法人内の緊急連絡体制が整っている。	消防署の指導で、夜間想定にて年2回の避難訓練を日中に実施している。訓練時には隣接の病院より応援を得ている。法人で非常時の水や食料など備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修に参加し、入居者一人ひとりのプライバシーや誇りを損なわないよう配慮している。また不適切な対応があった時には、その都度職員同士で注意している。	ミーティングで話し合ったり、研修会を実施したりすることで、利用者一人ひとりの気持ちを大切にすることを徹底している。また、個人情報の記録も保管場所を決め適切に管理されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式の焦点情報(私ができること、私ができないこと)を用いて展開している。また、日々の関わりの中で個別に話をし、思いや気持ちを聴く時間を設けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としてある程度の日課はあるが、入居者の意思を優先し、その人のペースで過ごせるように対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着る服など本人様に選んでいただいている。また地域の美容院の方が来所されカットしたり、送迎され美容院は行く方もいる。家族と一緒に馴染みの美容院へ行かれる方もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は運営母体から提供され、入居者の状態に合わせて刻み食などにも対応している。また月に一度の夕食作りやおやつ作りでは、入居者でメニューを決めたり調理をしている。	利用者がついたテーブルに病院の厨房で作られた食事を配膳し、職員が側で見守りや介助を行っている。利用者の好む箸や食器が使用するなど工夫している。また月1回は、利用者の好む献立や行事食や手作りおやつなどが楽しめる。	利用者好みの献立や、食事を作る楽しさや、職員と一緒に会話しながら食事をする楽しさが持てるような工夫が更に増えるように期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食以外に病状に応じた食事(糖尿食等)を提供している。また、食事以外に、10時と3時におやつ時間を設け、水分摂取に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は皆様に口腔ケアをして頂く。自分で十分にできない方はお手伝いをさせてもらい、個々の口腔状態をチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導等を行っている。失禁等に対しても柔軟に対応している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮してトイレ誘導を行っている。布パンツへの移行も支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取できるように間食を取り入れたり、果物や乳製品などを召し上がっていただいている。また、ラジオ体操や体を動かすレクリエーションを実施している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人単位での入浴を実施し、その人のペースで行っている。また、体調が悪いときや、拒否があるときは曜日を変更するなどして対応している。	基本的には週2回の入浴としているが、入浴日や時間は利用者の希望を尊重している。入浴剤を使用し、気持ちよく入浴してもらえるように工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の眠りの状態に合わせて対応している。不眠時は、話をしたり飲み物を飲んでいただくなどし、夜勤職員と一緒に過ごすなどの対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に個別の薬情を綴り、薬の作用・副作用の内容が確認できるようにしてある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や茶碗拭き、洗濯干しなど趣味や役割をもって頂き充実した日を過ごして頂けるようしている。またコーヒーが好きな方にはいつでも飲めるよう自室に用意してある。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物など希望があれば出かけるようにしている。希望以外でも散歩やドライブを行い出かけるようにしている。年間行事の菊人形見学には家族にも参加を呼びかけている。	週1回はドライブに出かけたり、近所の商店や公園、寺などに散歩に出かけたりしている。利用者一人ひとりの希望に応じて突発的な外出にも臨機応変に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事業所で預かり管理しているが、買い物などの外出時には入居者の方にお渡しし、支払い等見守りながら支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由としており、希望により電話をしている。現在手紙を利用している方はいない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の貼り絵や作品などを展示している。廊下やトイレ、浴室等には手すりを設置し、安全面にも考慮している。	食堂は明るく適温に管理され、利用者の作品などが多く飾られている。廊下にも作品が多く飾られている。浴室やトイレは清潔で、廊下の手すりも完備しており、安全に生活できるように配慮されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間でも入居者の専用位置(自分の場所)ができやすい。長いすやベットもおりてあり、自由に一人になれるようしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の方の使い慣れたものを持っていただいている。	居室には利用者の使い慣れた衣装ケースや家具、テレビなどが持ち込まれている。利用者の作品や家族の写真などが飾られ、居心地の良い空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「私ができること、できないこと」シートを用い、残された能力を生かした生活が出来るよう努めている。また居室のドアには入居者の名前を書き、トイレや浴室もわかりやすいようにしている。		